

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ一人ひとりが具体的な行動計画を持ち寄り、目標を達成するための計画を作成。 ・スタッフ個人、事業所の強みを活かす計画を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的に実行に移しやすい計画は比較的实施できた。 ・昨年度末に作成した改善計画の中に、計画しただけになってしまったものや、状況が変わっても、古い情報を基にした計画のままのものがあつた。 	<p>看護師、見守り支援員と意見交換を実施。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内で作成した個人の評価表をもとに、隔月で面談を実施する。スタッフからの意見や地域の意見を年間計画に反映させ、更新していく。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示板を設置する。 ・花やイスなどを用意し、過ごしやすい庭づくりを行う。 ・感染症の流行期には、来所者にも手洗い、うがいを呼びかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所付近に掲示板を設置しても見る人が少ないと考えられたため、実施せず。 ・プランターの花植え、ひまわり畑など環境美化を行った。 ・ポスター、消毒液を用意し来所者に感染予防の取組みを呼びかけた。 	<p>全島民を対象に聞き取りを実施。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・来所者を受け入れる時間を決める。 ・屋外での活動を増やし、スタッフが間に入って来所者と利用者の会話のきっかけをつくる。 ・噂話など、ケアの場としてふさわしくない話題は避けるよう来所者に呼びかける。 ・消毒液をわかりやすい場所に設置し、手洗いうがいを声掛けする。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・老人会の活動日程や事業計画を事前に知り、より密接にかかわっていく。 ・見守り支援活動に、スタッフ全員が交代で参加する。 ・高齢者と子供が交流する場作り。 	<ul style="list-style-type: none"> ・老人会の活動日を事前に確認できなかった。生きがい作り活動には参加し、地域の高齢者と交流を持った。 ・看護師、見守り支援員と週に1回の情報交換を継続した。 ・子供と交流する場は作れたが、地域の高齢者の参加が少なかった。 	<p>全島民を対象に聞き取りを実施。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が集まる場は老人会活動をバックアップすることで作る。 ・「世話になる場所」ではなく「自分でできることを助ける場」として周知する。 ・たから主催ではなく見守り支援活動、イマキラ園、学校などとの連携を大事にする。

<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者のつながりを見える化し、それをもとにした支援体制をつくる。 ・企画を一緒に考え実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・つながりの見える化、支援体制づくりは実施できてない。 ・テゴづくりなど、高齢者の特技を活かした企画を実施。若い世代も参加し交流があった。 	<p>全島民を対象に聞き取りを実施。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフが出向くことで、心配な高齢者とのつながりを作っていく。 ・たからスタッフは本人のニーズに気付き、適切に地域資源とつなげ問題解決を行う。 ・田畑や果樹を高齢者の活躍の場として利用し、高齢者同士や若い世代との交流を促す。
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域からの議案も話し合える場にする。 ・改善計画の取り組み状況を定期的に報告する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議を行えていない。 ・地域の課題でもある来年度以降は地域の運営協議会を立ち上げ、その中に事業所として参加したい。 		
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな場面を想定した訓練を行い、災害時に取るべき行動を確認する。 ・地域の高齢者の状況を消防団と共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・消防団、教員と共に避難訓練を実施した。反省をもとに、防災サイレンを新たに設置した。 ・地域の高齢者の状況について、消防団と共有する機会を作った。 	<p>全島民を対象に聞き取りを実施。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4月中に近隣教員との関係づくりの場を設ける。 ・スタッフは隔月で災害時の動き方について確認、シミュレーションする。 ・消防団との情報共有を定期的に行い、緊急時の動き方を確認する。